

創世記 45 : 1-28

「イエスは和解をもたらされる」

45:1 ヨセフは、そばに立っているすべての人の前で、自分を制することができなくなって、「みなを、私のところから出しなさい」と叫んだ。ヨセフが兄弟たちに自分のことを明かしたとき、彼のそばに立っている者はだれもいなかった。45:2 しかし、ヨセフが声をあげて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、パロの家の者もそれを聞いた。45:3 ヨセフは兄弟たちに言った。「私はヨセフです。父上はお元気ですか。」兄弟たちはヨセフを前にして驚きのあまり、答えることができなかった。45:4 ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか私に近寄ってください。」彼らが近寄ると、ヨセフは言った。「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。45:5 今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです。45:6 この二年の間、国中にききんがあったが、まだあと五年は耕すことも刈り入れることもないでしょう。45:7 それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。それは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるためだったのです。45:8 だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。神は私をパロには父とし、その全家の主とし、またエジプト全土の統治者とされたのです。45:9 それで、あなたがたは急いで父上のところに上って行き、言ってください。『あなたの子ヨセフがこう言いました。神は私をエジプト全土の主とされました。ためらわずに私のところに下って来てください。45:10 あなたはゴシェンの地に住み、私の近くにいることになります。あなたも、あなたの子と孫、羊と牛、またあなたのものすべて。45:11 ききんはあと五年続きますから、あなたも家族も、また、すべてあなたのもものが、困ることのないように、私はあなたをそこで養いましょう』と。45:12 さあ、あなたがたも、私の弟ベニヤミンも自分の目でしかと見てください。あなたがたに話しているのは、この私の口です。45:13 あなたがたは、エジプトでの私のすべての荣誉とあなたがたが見たいっさいのことを私の父上に告げ、急いで私の父上をここにお連れしてください。」45:14 それから、彼は弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンも彼の首を抱いて泣いた。45:15 彼はまた、すべての兄弟に口づけし、彼らを抱いて泣いた。そのあとで、兄弟たちは彼と語り合った。45:16 ヨセフの兄弟たちが来たという知らせが、パロの家に伝えられると、パロもその家臣たちも喜んだ。45:17 パロはヨセフに言った。「あなたの兄弟たちに言いなさい。『こうしなさい。あなたがたの家畜に荷を積んで、すぐカナンの地へ行き、45:18 あなたがたの父と家族とを連れて、私のもとへ来なさい。私はあなたがたにエジプトの最良の地を与え、地の最も良い物を食べさせる。』45:19 あなたは命じなさい。『こうしなさい。子どもたちと妻たちのために、エジプトの地から車を持って行き、あなたがたの父を乗せて来なさい。45:20 家財に未練を残してはならない。エジプト全土の最良の物は、あなたがたのものだから』と。」45:21 イスラエルの子らは、そのようにした。ヨセフはパロの命により、彼らに車を与え、また道中のための食糧をも与えた。45:22 彼らすべてにめいめい晴れ着を与えたが、ベニヤミンには銀三百枚と晴れ着五枚とを与えた。45:23 父には次のような物を贈った。エジプトの最良の物を積んだ十頭のろば、それと穀物とパンと父の道中の食糧とを積んだ十頭の雌ろばであった。45:24 こうしてヨセフは兄弟たちを送り出し、彼らが発発するとき、彼らに言った。「途中で言い争わないでください。」45:25 彼らはこうしてエジプトから上って、カナンの地に入り、彼らの父ヤコブのもとへ行った。45:26 彼らは父に告げて言った。「ヨセフはまだ生きています。しかもエジプト全土を支配しているのは彼です。」しかし父はぼんやりしていた。彼らを信じることができなかったからである。45:27 彼らはヨセフが話したことを残らず話して聞かせ、彼はヨセフが自分を乗せるために送ってくれた車を見た。すると彼らの父ヤコブは元気づいた。45:28 イスラエルは言った。「それで十分だ。私の子ヨセフがまだ生きているとは。私は死なないうちに彼に会いに行こう。」

はじめに

昨年クリスマスの説教が始まる前、ヨセフの人生シリーズはほぼ終盤に入っていましたが、創世記 50 章でヨセフが亡くなるまであと 6 回このシリーズのメッセージが続きます。

11 月の終わりに 45 章 1-8 節まではすでに学びましたが、今回は 45 章全体を学ぶために、1-8 節もおさらいすることにしました。

45 章は、4 つにわけてお話しします。

モーセが読み手に伝えようとしている内容を明確に理解するためです。

その前に、ここまでのお話を振り返っておきましょう。

ヨセフは、父ヤコブのお気に入りの息子でした。
彼はある日、父や兄たちがヨセフにひれ伏すという予知夢を見ました。
当時の文化では、それは想像だにしないありえないことでした。
ヨセフの兄たちは、ヨセフを妬んで殺そうと企みました。
しかし、兄のひとりルベンがそれを思いとどまらせ、ヨセフを穴に投げ込むことにしました。
最終的には兄たちはエジプトに向かう行商に奴隷としてヨセフを売りました。
行商はエジプトに到着するとヨセフを奴隷として売りました。やがて、ヨセフは主人ポティファルの所有する大きな邸宅の管理責任者となりました。
ポティファルは王の侍従長でした。
ヨセフはその職で神の祝福を受けていましたが、若く魅力的な男性だったため、ポティファルの妻から言い寄られました。
ヨセフはポティファルの妻と性的関係を持つという誘惑に抵抗し、逃げました。
にもかかわらず、彼は強姦未遂の濡れ衣を着せられ、投獄されました。
牢獄の中でも、神はヨセフを祝福されました。
神は、夢を解き明かす力をヨセフに与えられました。それがきっかけで、王の夢を解き明かすために、彼はついに釈放されました。
ヨセフ以外に、王の夢を解き明かせる者は誰もいませんでした。
この一件で、王はヨセフをエジプト全土の監督者に任命しました。
解き明かされた夢の内容は、7年の豊作と7年の飢きんについてでした。
ヨセフは、豊作の7年のうちに作物を備蓄し、飢きんの7年にそれを売る責任者となりました。
その飢きんが始まってまもなく、ヨセフの兄たちが食糧を買いにエジプトに来ました。
ヨセフは兄たちに気づきましたが、兄たちはヨセフにまったく気づきませんでした。
外見もまったく違っていましたし、通訳をとおして話していたからです。
ヨセフは、兄たちの心を試してみることにしました。
自分の正体を明かしたいと思いましたが、この時点ではまだ、兄たちを悔い改めに至らず神の働きが続いていたからです。
ヨセフは、彼らを試し、うまくいけば兄たちの心を変えることとなるような状況を作り出しました。
そして、神が兄たちの心の中に大きく働いてくださり、兄たちが悔い改めに至ったとヨセフは確信できるようになりました。
兄たちは自らの罪を認め、会話の中で15回も父について触れ、父に対する愛を示しました。
兄たちの誠実な心と家族に対する深い思いが明確になりました。
ユダは、ベニヤミンの身代わりになると名乗り出るほどでした。これは、将来ユダをとおして起こることをあらかじめ示しています。

ユダの子孫のひとり、この世の救い主なるお方です。このお方は、私たちの身代わりとなって、罪の罰を受けてくださいました。

この時点で、ヨセフが自らの素性を隠す理由はもうありません。
44：18-34 に記されたユダの感動的な言葉に、ヨセフは感情を抑えられなくなりました。

ここから 45 章の学びです。

1. ヨセフが自らの素性を明かす (1-13 節)

ヨセフはまず、しもべをすべて部屋から去らせました。
彼の素性を明かすのは、個人的なことにしておきたかったのです。
そして最初に泣きました。
それは、家の他の場所にも聞こえるほど大きな泣き声でした。
あらゆる感情が一気に押し寄せてきたのでしょう。
ヨセフは、兄たちと再会した日から数か月間、その感情を抑えてきました。
ヨセフが兄たちに自分の素性を明かすと、兄たちはたいそう驚きました。本当にヨセフだとわかっただけのために兄たちに近寄り、改めて、自分はヨセフだと言わなければならないほどでした。
素性を明かして最初に、ヨセフは父のことを尋ねました。

まだ父親が健在か気になっていたのです。

次に、ヨセフに対する兄たちの罪を赦し、神のご計画の一部だったと言って、彼らを励ましました。

ヨセフの家族を守り、後にユダヤ民族へと発展させるために、神がヨセフを権威ある地位に置かなければならなかったのだとヨセフは説明しました。

彼らの罪を弁護したわけではありませんが、主権者なる神のご計画のうちに自らの人生があることをヨセフははっきりと理解していました。

さらに、ヨセフは兄たちに、「あなたがたが見たいっさいのことを私の父上に告げ、急いで私の父上をここにお連れしてください。」と言いました。

ヨセフは「急いで」と繰り返し言っています。

父に何としても再会したかったのでしょう。

そして、ヨセフは兄たちに富を約束します。近隣のゴシェンという地に住めば、ヨセフが家族を養うと言いました。まだ飢きんが5年続くからです。

ではこの個所から何を学べるでしょうか。

私たちの人生における神の摂理は、今日の私たち全員にとって、とても大切な神からの励ましです。

この世の創造主と一对一の関係を築くなら、神が私たちとは違った次元で働かれることを理解しなくてはなりません。

私たちの人生に起こるすべてのことを神はご存知です。そして、その状況をとおして、私たちのために何でもできる力をお持ちです。

神はとても忍耐強いお方です。そして、ご自身の時とご計画にしたがってすべてをなさいます。ヨセフのように、私たちにも神のご計画の全体像が後になってみないとわからないことがあります。

ですから、つらい状況に置かれたとき、私たちは神を信頼しなくてはなりません。

これは簡単なことではありません。神への信頼と神の恵みが必要です。練られて成熟した信仰が必要です。

ここで、蝶々の手伝いをしようとした男の子のたとえ話をしましょう。

ある男の子が、外で遊んでいた時に、いもむしを見つけました。

男の子はいもむしを手に乗せ、家に持って帰ってお母さんに見せました。

そして、家で飼ってもいいかと尋ねました。お母さんは、大切にすならいいと言いました。

男の子はお母さんから大きな容器をもらって、えさになる葉っぱや登れそうな枝を入れてあげました。

男の子は毎日いもむしの様子を見、新しいえさの葉っぱをあげました。

ある日、いもむしは枝をのぼりはじめました。様子が少し変です。

男の子は心配になり、お母さん呼びました。お母さんはその様子を見て、いもむしがさなぎになるのだとわかりました。

それで、いもむしは蝶々に変身するのだと男の子に説明しました。

男の子は、いもむしに変身することを聞いて、わくわくしました。

蝶々が出てくるのを今か今かと待ちました。

そしてついにその日が来ました。さなぎに穴が開き、蝶々が一生懸命外に出ようとしています。

男の子は最初喜んでいましたが、だんだん心配になってきました。

蝶々がなかなか出てこられなかったからです。穴から出て自由に飛びそうな気配もなく、出られる望みはなさそうに見えました。

男の子は心配のあまり、手伝うことにしました。

はさみを取りに行き、さなぎの殻を切って穴を大きくしてあげると、蝶々は外に出てきました。

外にでた蝶々を見て、男の子はびっくりしました。

胴体ははれ上がり、羽根は小さくてしわしわだったからです。

男の子は、羽根がひろがってきて、飛べるようになるのを期待しながら、蝶々を見つめました。

時間がたてば、胴体のはれも引いて、羽根も広がってくるだろうと思ったのです。

けれども、そうはなりませんでした。

その蝶々は、はれた胴体としわしわの羽根を引きずって、這うことになりました。

一生飛べなかったのです。

どうしてそうなったのか知りたがる男の子を、お母さんは近所にある大学の生物の先生のところに連れていきました。

そこで、蝶々にはさなぎの殻からなかなか出られない経験が必要だということを学びました。さなぎの殻に開いた小さな穴から出ようと必死に頑張ることで、胴体から羽根へと体液が放出されます。

その段階を通らなければ、一生飛べなくなります。

男の子の思いやりが、蝶々をダメにしてしまったのです。

神は、私たちの人生にもつらい経験をお許しになります。けれどもそれは、そういった経験をとおして、神を信頼することを学び、主イエスの恵みと知識において成長するためです。

神がつらい体験をすべて取り去ってしまわれたら、私たちは、男の子が助けようとした蝶々のようになってしまいます。イエスにあって強められるどころか、弱くなってしまいます。

私自身、キリストに仕えてきた約30年間を振り返ると、逆境をとおして私は強くされたと心から言えます。

皆さんにも、たいへんな目に遭うときに、神を信頼していただきたいと思います。どうか、男の子と蝶々の話を思い出してください。

2. ヨセフ、兄たちと和解する。(14-15 節)

14-15 節には、ヨセフと兄たちの感動的な和解が描かれています。

彼らは、お互いに涙を流し、語り合いました。

兄たちと離れていた20年を取り戻すのです。

この感動的なシーンをモーセはたった2節で記していますが、当事者たちにとっては、一大事だったに違いありません。

この時の出来事にあまり重きを置く必要はありませんが、ここから学べる教えについては考えなくてはなりません。

適用

クリスチャンなら、必ず和解に関する証があるはずです。

いつかの時点で、神と和解した経験があるからです。

私たちはもともと、完全な被造物として造られ、私たちの創造主なる神と完全な関係にあったと、聖書は教えます。

私たちの先祖アダムとエバが神に背いたことで、その関係は壊れました。

私たち人間は神から引き離されたのです。

ある日、私たちは自らの罪によって神から引き離されていることに気づき、自分の力ではその壊れた関係を修復する術のないことを知りました。

また、その壊れた関係を修復するために、神が御子イエス・キリストをこの世に遣わされたことも知りました。

そして、神に対する罪を悔い改め、イエスを信じるなら、神との関係を取り戻すことができることも教えてもらいました。

その一連のことが起こった時期、私たちはたくさんの涙を流したのではないのでしょうか。

クリスチャンであるとは、私たちの創造主であり所有者であるお方と一対一でつながっているということです。

この関係は、神と私たちとの和解から始まります。

壊れた関係がいったん修復されると、神とたくさん語り合います。

その語り合いを祈りと呼びます。

取り戻すべきものもたくさんあります。

長年、神に逆らって生きていたかもしれませんが、和解すると、神に従い、仕えたいと思うようになります。

私たちはどうでしょう。創造主であり所有者であるお方と私たちとの関係はいかがでしょうか。今も神に逆らって、神と引き離されたまま、わが道を行き、神など必要ないと思っていますか。

もちろん、それでもかまいません。けれども、神と和解するまでは、本当の幸せはやってこないとお伝えしておきます。

生甲斐や充実感に欠け、心は常にむなしさを感じるでしょう。

この新年、幸福や愛を探し求めても、私たちが造られた創造主とのつながりなしに、満たされることは決してありません。

すでにクリスチャンなら、これからも神との会話を続けましょう。そして、神のみことばである聖書を読みましょう。

そうすれば、神が霊を養ってくださり、イエスをとおして満たしてくださいます。それは、神の聖霊の力による満たしです。

ルカ 15 章の放蕩息子の話を思い出してください。

彼は、お金をたくさん持って出ていき、遊び歩きました。そしてお金が尽きたとき、父親から離れてむなしな生き方をしていたことに気づきました。

自らの過ちに気づき、悔い改めて和解を求めて初めて、彼は家族のもとで本当の人生を取り戻しました。

私たちの人生もこれと似ています。私たちには家族があります。それは、神の家族です。

私たちは、神の家族に属しているか属していないかのどちらかです。

自分がどちら側にいるかは、自分自身にしかわかりません。

けれども、神はその家族に属してほしいと願っておられます。そして、その道も備えてくださっています。

とは言え、信仰の一步を踏み出すかどうかはあなた次第です。今日、その一步を踏み出しますか。

今日、もうひとつ学べることがあります。それは、過去に私たちにひどい仕打ちをした人たちを赦すことについてです。

人を赦すのはなかなかむずかしいことですが、しなければならないことです。

マタイ 6 : 14-15

6:14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。

6:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。

皆さんの心の中に、誰か赦さなければならない人はいませんか。

壊れた人間関係を修復するのに、今日ほど良い日はありません。先延ばしは禁物です。

クリスチャンには和解の務めが与えられていると、聖書は教えます。

コリント第二 5 : 17-21

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。 5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。

神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。 5:19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。 5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるよう

です。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方

にあって、神の義となるためです。

私たちの和解の務めを信用してもらうためには、信徒同士の人間関係が良好でなくてはなりません。

3. ヨセフの家族に対する王からのもてなし (16-24 節)

モーセは 16-24 節で、ヨセフの家族全員をカナンの地からエジプトに呼び寄せた一件を記録しています。

エジプトの王は、ヨセフの家族全員をエジプトに呼び寄せるのに必要なものをすべて与えると申し出ました。

また、彼らが住むために一番良い土地を与えるとも言いました。

18 節には、「最良の地」とあります。

妻や子供たちのために、車も用意されました。

新生活に必要なものもすべて与えられました。

そのうえ、銀三百枚まで贈られました。これは、大金です。

銀 20 枚で奴隷が買えたのですから、けっこうな金額です。

それ以外にも、着物 5 枚も与えられました。

カナンの地に戻るために、穀物や物品を積んだロバは 20 頭にもなりました。

ここですばらしいのは、ヘブル人の神エホバを礼拝していない王の手をとおして、神がこれらすべての物を彼らに与えられたことです。

ここで教えられることは、私たちにとって大きな課題です。神は私たち自身や家族のために必要を備えてくださいますが、その捉え方が変わる教えになるかもしれません。

神が導かれるところには必ず神の備えがあります。これには疑いの余地はありません。

通常、神の備えは神の民をとおしてやってきます。また、たいいてい場合は、聖霊によって神と親しく交わり、祈っている人をとおしてやってきます。

しかし、違った方法で神がすばらしく働かれる場合もあります。

私たちの職業は、神から与えられたものです。それが神の備えだとは認識していないかもしれませんが、私たちにあるものはすべて、神から与えられたものです。

ですから、どのような方法であっても、神が与えてくださったものを感謝すべきです。

私が日本に来る 5 年ほど前、ノンクリスチャンだった親類が亡くなりました。神は、これをとおしてすばらしい方法で必要を備えてくださいました。

当時はその重要性があまりわかりませんでした。今はそれを痛感しています。

このとき、私は遺言の執行者と話しました。

そして、叔母はクリスチャンではなかったけれど、私の信仰の姿勢を尊敬していたと聞かされました。

今はこれが神の備えだったとはっきりわかります。思いがけないかたちでしたが、間違いなく神の備えです。

それがなければ、私たち夫婦は 3 年前に日本に来られなかったでしょう。

4. 年老いたヤコブが「元気づく」(25-28 節)

創世記 47 : 28 から、ヤコブが死んだのは 147 歳の時だったことがわかります。また、エジプトに 17 年住んだともあります。

ですから、息子たちが帰ってきて、ヨセフの生きていることとエジプトで出世したことを伝えたのは、ヤコブが 130 歳のときだったことになります。

その話を聞いて、最初信じられなかったのも無理ありません。

息子たちは、それまで正直者ではなかったからです。

しかし彼らは、エジプトから持ち帰った物品や車を見せて、ヨセフがまだ生きていることを父親に納得させました。

そこには十分な物資がありました。

また、息子たちから伝え聞いたヨセフの言葉で、ヤコブは納得しました。

ヤコブはこの時、20 年前のヨセフの夢のことを思い出していたかもしれません。

息子たちは、45 : 5-8 でヨセフが語った言葉を父にも伝えたことでしょう。

45:5 今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです。45:6 この二年の間、国中にききんがあったが、まだあと五年は耕すことも刈り入れることもないでしょう。45:7 それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。それは、あなたがたのために残りの者をこ

の地に残し、また、大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるためだったのです。45:8 だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。神は私をパロには父とし、その全家の主とし、またエジプト全土の統治者とされたのです。

適用

神が、私たちに、または周囲の信徒たちに何かすばらしいことをしてくださると、心で何かが起こります。

私たちは、神に仕えようという思いを新たにし、「元気づけ」られます。

ヤコブは 130 歳でしたから、外国に行くどころか、家からも出たくなかったでしょう。

けれども、神がヤコブを「元気づけて」くださいました。ヨセフが死んでおらず、元気にいるという知らせを聞かせてくださったのです。

それだけでなく、神がエジプトでヨセフを大いに用いてくださっているのです。

今日、もしかしたら元気がなかったり、落ち込んでいたりする人もいるかもしれません。

最近、自分の人生で神が働かれるのを感じていないのかもしれない。

そのような方々のために、神が聖霊によって元気づけてくださるように、そして、今年、励みとなるようなことを実際になしてくださるように、お祈りします。

祈りましょう。

天の父よ、私たちはあなたを愛しています。私たちの罪を負って死ぬためにイエスをこの世に送ってくださって感謝します。

また、あなたの恵みと愛によってあなたと和解できたことを感謝します。

けれども、私たちが生きる罪にまみれた世の中では、失望させられることだらけです。がっかりしたり、落ち込んだりすることがたくさんあります。

どうか今日、ここにいる私たちとネットで聞いている人たちをあわれんでください。

助けを必要としている人の心をあなたはご存知です。その置かれた状況をご存知です。どうかあなたのことをもっとよく知ることができるように、あなたが働いてくださることがわかるように、助けてください。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。